

長尾精一先生胸像再建記念

長尾精一先生は、明治13年（1880年）6月に公立千葉病院に招かれて病院長兼医学教頭の任にあたり、千葉病院が県立千葉医学校、第一高等中学校医学部、第一高等学校医学部と昇格・発展を重ねるごとに、その長として尽力し本学前身の発展に身をもって推進した功労者です。千葉医学専門学校に昇格した際には初代校長に任ぜられました。その後千葉医学は目覚ましい発展を遂げてきたことは衆人の知るところです。明治34年（1901年）12月、有志により亥鼻地区に医学図書館「長尾文庫」が建設されました。のちに正式な医学図書館が建設される際に長尾文庫は解散し、その資金の一部を用いて明治44年（1911年）4月に高村光雲彫刻による長尾精一先生の胸像が建立されました。

しかしながら、第二次世界大戦末期の昭和18年（1943年）7月には金属供出のため胸像も失われ、以後台座のみが残された状態が80年間も続いてきました。幸いにも高村光雲制作の原型塑像が千葉市立郷土博物館に保存されていたため、千葉大学医学部ゐのはな同窓会は創立150周年を記念して胸像の完全復刻を企画し、ここに再建しました。長尾精一先生の多大なる貢献に敬意を表し、千葉医学の伝統を担う若者たちの発展を願う次第です。

令和6年（2024年）11月17日 千葉大学医学部ゐのはな同窓会一同